

各 位

会社名 日東工器株式会社
代表者名 代表取締役社長 小形 明誠
(コード番号 6151 東証プライム)
問合せ責任者 取締役 専務執行役員 管理統轄 森 憲司
(TEL 03-3755-9970)

2024年3月期中間決算説明 質疑応答集

この質疑応答集は、2023年11月27日（月）に開催した2023年3月期決算説明会でいただいた主なご質問をまとめたものです。

なお、ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております。

Q1 新工場の計画についての状況を教えてください。

A1 2023年10月に着工、2025年5月末に竣工予定です。新工場の稼働に向けて、来年3月に白河日東工器とメドテックを合併し、着々と準備を進めております。

Q2 新工場の設備投資159億円は時価総額の4割相当の投資となります。資本コストに対してのリターンや計画はどのように考え、どのような体制で議論しているのか教えてください。また、投資額は2024年度と2025年度で計上される予定でしょうか。新工場竣工後の減価償却費はどの程度を見込んでいますでしょうか。

A2 現在、新工場設立に向けては取締役会で様々な議論を進めております。開示出来る時期になりましたら、ご説明させていただきます。
新工場の投資は2023年度から2025年度にかけて、およそ3分の1ずつ支払う予定です。減価償却は2025年度以降に発生し、建物については長期間かけて償却しますが、設備については9年間で償却になるため、10年目以降に償却費の負担が減少する予定です。また、補助金は2025年度に確定するため、改めて開示いたします。

Q3

下期の迅速流体継手の主要分野についてお聞かせください。また、来年度の半導体向けの市場見通しも教えてください。

A3

半導体向けには半導体装置のセット需要と半導体製造用薬液用途が含まれており、リチウムイオン電池の電解液用と比べ、半導体向けの売上構成が大きくなります。需要については、第4四半期より回復基調に向かうと予測しております。

自動車業界向けについては、迅速流体継手事業全体の売上の約2割程度で、この先も同様に推移すると考えております。一般産業向けの需要は堅調に推移しております。

Q4

半導体の技術革新が進む中で、迅速流体継手の競争力は依然として高いのでしょうか。

A4

半導体向けの迅速流体継手については、高機能・高品質が要求される製品のため、当社の優位性は高いと考えております。

Q5

原材料価格はまだ上がっていますでしょうか。

A5

原材料価格の高騰は一時期に比べ落ち着いてきておりますが、各生産工場の購買部門では月数件の値上げ要請を受けている状況です。

Q6

タイバーツ高による為替の影響について教えてください。

A6

タイで生産しているリニア駆動ポンプについては、タイバーツ高による為替の影響は大きく受けております。一部タイバーツについては為替のヘッジも始めており、長期的に極端な為替の影響が出ないように対策しております。

Q7

リニア駆動ポンプ事業と建築機器事業は足元で赤字ですが、事業ポートフォリオの観点から取締役会としてどのように問題を認識し、議論しているのか教えてください。収益性の低いリニア駆動ポンプ事業を今後売却するなどの選択肢はあり得るでしょうか。

A7

リニア駆動ポンプ事業と建築機器事業については社内できざまな議論を進めております。リニア駆動ポンプ事業について、これからもまだまだ伸びる余地が大きくあると考えており、現時点において売却は考えておりません。これらについては、2024年度から開始する新中期経営計画の重要課題として認識しています。ご説明できる状況になりましたらご報告します。

Q8

2024年3月期の計画に対して、下期の売上と営業利益が2桁増となる背景要因を教えてください。

A8

国内外ともに、昨年の価格改定前の駆け込み需要による市場在庫の調整は目途が付いてきたと認識しており、需要回復を見込んでおります。また、迅速流体継手は自動車業界の設備投資回復、リニア駆動ポンプは自動化に貢献する新製品投入もあり、通期業績予想は達成の見込みです。

Q9

昨年の価格改定前の駆け込み需要による市場の在庫調整が落ち着いてきたことによるプラス影響は、いつ頃から出てくるのでしょうか。

A9

在庫調整のプラス影響について、現段階では第4四半期頃から出てくると想定しております。

Q10

今後、値上げの予定はありますでしょうか。

A10

海外の円建てで取引をしている一部代理店では、年明けから値上げを予定しております。

Q11

PBR1倍割れの状況に対して、ROE、PBRの向上策が必要と考えますが、どのような体制で議論されていますでしょうか。また、検討されている改善施策や考えを教えてください。

A11

PBR1倍割れの状況については認識しており、取締役会で議論を進めております。2024年度から開始する新中期経営計画には、ROEも併せPBR改善を踏まえた企業価値向上対策も検討しておりますので、決定次第、開示いたします。

Q12

自社の株式取得の計画が、もしあれば教えてください。

A12

資本政策について様々な施策を社内で検討しておりますが、自己株取得の予定については、ご回答は控えさせていただきます。

Q13

在庫が増えている理由についてご説明ください。

A13

材料の調達難の影響により、一部製品の生産が不安定な状態にあります。その中で機会損失を避け、またメーカーとしての供給責任を果たすために一部製品では在庫を厚く持っております。一方、製品によっては生産調整を進めているため、今後、在庫水準の適正化に向かっていく予定です。

Q14

在庫を増やしている状況について、資本コストに対する機会損失をどのように認識していますか。資本構成への検討状況について教えてください。

A14

資本構成について取締役会で様々な議論を進めております。現在、2024年度から開始する新中期経営計画にも関連し検討しております。

以上

IRサイト



当社HPのIRサイトでは、[株主・投資家の皆様へ積極的に情報を発信しております。ぜひご覧ください。](https://www.nitto-kohki.co.jp/ir/)

<https://www.nitto-kohki.co.jp/ir/>

決算説明会動画配信



当社では、[決算説明会の動画を配信公開しております。\(2024年6月末迄\)](https://irp-system.net/presenter/?conts=01hbqxa31d4qly5tdwv312nw8t)ぜひご覧ください。

<https://irp-system.net/presenter/?conts=01hbqxa31d4qly5tdwv312nw8t>